# 平成24年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年8月9日


上場会社名　美津濃株式会社　　上場取引所　東 大
コード番号　8022　URL　http://www.mizuno.co.jp
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 水野　明人
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役経理財務担当　(氏名) 福本　大介　TEL 06-6614-8465

四半期報告書提出予定日　平成23年8月10日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第1四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 24年3月期第1四半期 | 41,541 | 0.9 | 3,198 | 6.2 | 3,020 | 14.5 | 1,941 | 56.5 |
| 23年3月期第1四半期 | 41,156 | 0.4 | 3,012 | 59.1 | 2,636 | 11.6 | 1,240 | 23.0 |

(注)包括利益　24年3月期第1四半期　2,148百万円　(272.0%)　23年3月期第1四半期　577百万円　(―%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|---|---|---|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 24年3月期第1四半期 | 15.59 | ― |
| 23年3月期第1四半期 | 9.96 | ― |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|---|---|---|---|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 24年3月期第1四半期 | 129,592 | 76,713 | 59.0 |
| 23年3月期 | 128,471 | 75,188 | 58.4 |

(参考) 自己資本　24年3月期第1四半期　76,515百万円　23年3月期　75,020百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 23年3月期 | ― | 5.00 | ― | 5.00 | 10.00 |
| 24年3月期 | ― | | | | |
| 24年3月期(予想) | | 5.00 | ― | 5.00 | 10.00 |

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 第2四半期(累計) | 78,000 | 2.2 | 3,000 | △27.2 | 3,100 | △18.2 | 1,700 | △4.6 | 13.64 |
| 通期 | 152,000 | 1.3 | 4,400 | △4.3 | 4,500 | 0.7 | 2,500 | △11.9 | 20.07 |

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ① 期末発行済株式数(自己株式を含む) | 24年3月期1Q | 132,891,217 株 | 23年3月期 | 132,891,217 株 |
| ② 期末自己株式数 | 24年3月期1Q | 8,315,679 株 | 23年3月期 | 8,312,138 株 |
| ③ 期中平均株式数(四半期累計) | 24年3月期1Q | 124,578,017 株 | 23年3月期1Q | 124,602,867 株 |

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しておりません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．　当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 4
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 4
２．　サマリー情報（その他）に関する事項 …… 5
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 5
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 5
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 5
（４）追加情報 …… 5
３．　四半期連結財務諸表 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 8
四半期連結損益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 8
四半期連結包括利益計算書
第１四半期連結累計期間 …… 9
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 10

**※　なお、第１四半期決算の補足説明資料を当社ホームページに掲載する予定です。**

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第１四半期連結累計期間（平成23年４月１日～平成23年６月30日）における当社グループの経営成績は、売上高は3億8千5百万円増収（0.9％増）の415億4千1百万円となり、営業利益は増収及び売上総利益率の改善により1億8千5百万円増益（6.2％増）の31億9千8百万円となりました。経常利益は営業増益及び営業外損益の改善により3億8千3百万円増益（14.5％増）の30億2千万円となり、四半期純利益は経常増益及び特別損益の改善により7億1百万円増益（56.5％増）の19億4千1百万円となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

① 日本

前第１四半期連結累計期間に比べ、売上高は7千6百万円増収（0.3％増）の298億7千5百万円となり、営業利益は増収及び売上総利益率の改善により1億5千4百万円増益（7.6％増）の21億8千5百万円となりました。

日本経済は、東日本大震災による被害の影響が依然として消費マインドを冷え込ませ、電力供給不足や原油価格上昇、さらには円高の進行など景気回復には予断の許されない状況が続きました。

このような情勢のもと、当社がオフィシャルスポンサーである「大阪マラソン２０１１」への市民ランナーの期待感増大に対して効果的な宣伝・プロモーション活動を展開したことなどにより、ランニングシューズの販売は引き続き堅調に推移いたしました。なかでもタイム短縮を望むシリアスランナー向けに開発した＜ＷＡＶＥ ＳＰＡＣＥＲ ＡＲ＞シリーズは、軽さと反発性・グリップ力など本格的ランナーにとって欠かせない機能をより進化させるとともに、つま先からかかとまで足全体を包み込むフィット感をアップさせ好評となりました。

ベースボール品は、野球人口の減少や買換え需要の低下により、一般向軟式用グラブやジュニア用グラブに加えバットの売れ行きも鈍ったものの、スパイクシューズやユニフォームは堅調に推移いたしました。とくに超硬合金金具をアウトソールに埋め込み靴底と一体成型で耐久性・軽量感・突き上げ防止にすぐれた＜グローバルエリート Ｌ ｓｅｒｉｅｓ＞は、その設計思想が認められ多くのユーザーに支持されました。

ゴルフ品は、クラブなどの単価が高価格であるため、個人消費低迷の最も大きな影響を受け極めて厳しい状況となりました。そのようななかで、高機能アンダーウエア＜ミズノ バイオギア＞シリーズが、背筋や骨盤のサポートによる疲れにくさや正しいアドレス姿勢のキープ力を実感したゴルファーの評価を得て健闘いたしました。

また、ウォーキングサンダル＜ＷＡＶＥ ＲＥＶＩＶＥ Ⅱ＞は、「わらじ」の歩きやすさの知恵とミズノ独自のウォーキング理論を融合させ好評を得ました。

② 欧州

前第１四半期連結累計期間に比べ、売上高は2千3百万円減収（1.0％減）の23億9千4百万円となり、営業損益は販売費及び一般管理費を抑制しコスト削減に努めたものの、減収及び売上総利益率の低下により6千5百万円減少し4千6百万円の営業損失となりました。

欧州は、引き続きギリシャなど一部のユーロ参加国の信用不安が拡大し、欧州中央銀行による政策金利の上昇に対する懸念もあり、景気の先行き不安から消費が低迷しました。

イギリスでは天候不順が続き、スポーツをはじめ人々の屋外での活動を鈍らせ、スポーツ品市場における商品の動きは緩慢でありました。このような傾向は、事業収益の柱であるランニングシューズや高機能搭載のサッカーシューズの売れ行きに影響を与えました。また、ゴルフ品は、アドバイザリープロ契約スタッフである世界ランク１位のルーク・ドナルド選手（英国）が活躍したこともあって、グローバルモデルである＜ミズノ　ＪＰＸ　８００＞アイアンや＜ミズノ　ＪＰＸ　８００　Ｐｒｏ＞アイアンなど主力クラブについてカスタムフィッティングの受注は増大いたしましたが、英国外への輸出が伸び悩みました。

ドイツにおいても天候に左右される中、主力ゴルフクラブである＜ミズノ　ＪＰＸ　８００＞シリーズは市場での知名度を徐々に浸透して行き、カスタムフィッティングを含め売上は堅調に推移いたしました。さらに、ランニングシューズは＜ＷＡＶＥ　ＲＩＤＥＲ　１４＞など主力モデルが健闘いたしました。

フランスではマラソン競技人口の増加に対応し、各地のマラソンイベント開催の機会をとらえ各種プロモーションを実施、ブランド訴求に効果を上げた結果、ランニングシューズの売上は好調に推移いたしました。また、ゴルフ品では主力の＜ミズノ　ＪＰＸ　８００＞などゴルフクラブに加え、キャディーバッグやゴルフシューズなども売上が増加いたしました。

③ 米州

前第１四半期連結累計期間に比べ、売上高は3千3百万円増収（0.5％増）の66億5千6百万円となり、営業利益は増収に加え販売費及び一般管理費の減少により6千2百万円増益（8.7％増）の7億8千4百万円となりました。

米国経済は景気減速や政府財政状態の悪化など先行き不安が増大し、価格を重視した慎重な消費傾向が支配し始めました。

このような情勢にもかかわらず、米州においては、事業牽引の柱であるランニングシューズが専門店チャネルを中心に販売額を伸ばし成果を上げました。なかでも＜ＷＡＶＥ　ＰＲＯＰＨＥＣＹ＞は高価格帯商品でありながら高機能の魅力を押し出し、シリアスランナーの支持を得て売上は好調に推移いたしました。

ベースボール品は、ユーザーの間に野球グラブに対して低価格志向の傾向が進んだものの、販売数量は増加し増収となりました。ゴルフ品は、主力モデル＜ミズノ　ＪＰＸ　８００＞アイアンのカスタムフィッティングの受注を中心に需要が回復し、売上を伸ばして収益性は改善いたしました。

④ アジア ・オセアニア

前第１四半期連結累計期間に比べ、売上高は2億9千9百万円増収（13.0％増）の26億1千5百万円となり、営業利益は増収及び売上総利益率の改善により2億3千7百万円増益（1,428.7％増）の2億5千4百万円となりました。

台湾は、比較的良好な景気の環境のもと、需要が拡大しているランニングシューズに加え、アスレティックウエアやスポーツアパレルが引き続き順調に推移いたしました。中国ではインフレ圧力の増大や人民元高の進行など先行き不透明な状況が続くなか、ユーザーの商品選別の傾向が強まり、全体の売上は横ばいであったものの、ランニングシューズやスポーツアパレルにおいてより付加価値の高い商品の販売割合が増加し、営業損益は大きく改善いたしました。オーストラリアにおいては、米ドルに対する豪ドルの上昇傾向により、小売店の値下げ圧力や並行輸入・海外からのインターネット購入の増加などにより、厳しい事業環境のもとランニングシューズやゴルフクラブなどの主力商品を中心に拡販に努めました。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第１四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ11億2千1百万円増加し1,295億9千2百万円となりました。主な要因は、現金及び預金の増加29億5千8百万円によるものです。一方で、商品及び製品は6億1千8百万円、繰延税金資産（流動）は5億8千6百万円減少いたしました。

負債は、前連結会計年度末に比べ4億3百万円減少し528億7千9百万円となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金の減少21億2千8百万円によるものです。一方で、短期借入金は10億3千7百万円増加いたしました。

純資産は、前連結会計年度末に比べ15億2千4百万円増加し767億1千3百万円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加13億1千9百万円、為替換算調整勘定の増加2億9千3百万円によるものです。以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の58.4％から59.0％へと0.6ポイント上昇いたしました。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年３月期の連結業績予想につきましては、平成23年５月19日公表の第２四半期（累計）及び通期の連結業績予想に変更はありません。

## ２．サマリー情報(その他)に関する事項

### （１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

### （２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

税金費用については、当第１四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税金等調整前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

### （３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

### （４）追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

当第１四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月４日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月４日）を適用しています。

退職給付引当金

一部の国内連結子会社は、平成23年６月に退職一時金制度について確定拠出年金制度等へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」（企業会計基準適用指針第１号）を適用しています。

本移行に伴う影響額は、特別利益として56百万円計上されています。

## ３．四半期連結財務諸表

### （１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

| | 前連結会計年度<br>（平成23年３月31日） | 当第１四半期連結会計期間<br>（平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 13,461 | 16,420 |
| 受取手形及び売掛金 | 32,763 | 32,665 |
| 有価証券 | 755 | 755 |
| 商品及び製品 | 22,866 | 22,247 |
| 仕掛品 | 817 | 734 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,198 | 1,083 |
| 繰延税金資産 | 2,573 | 1,986 |
| その他 | 4,193 | 4,113 |
| 貸倒引当金 | △988 | △1,002 |
| 流動資産合計 | 77,641 | 79,005 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物（純額） | 19,135 | 18,982 |
| 土地 | 15,175 | 15,176 |
| その他（純額） | 2,530 | 2,504 |
| 有形固定資産合計 | 36,841 | 36,663 |
| 無形固定資産 | 874 | 966 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 7,139 | 7,145 |
| 繰延税金資産 | 2,465 | 2,509 |
| その他 | 6,669 | 6,474 |
| 貸倒引当金 | △3,160 | △3,172 |
| 投資その他の資産合計 | 13,114 | 12,957 |
| 固定資産合計 | 50,829 | 50,587 |
| 資産合計 | 128,471 | 129,592 |

（単位：百万円）

| | 前連結会計年度<br>（平成23年３月31日） | 当第１四半期連結会計期間<br>（平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 17,695 | 15,567 |
| 短期借入金 | 5,620 | 6,658 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 6,000 | 6,000 |
| 未払法人税等 | 625 | 431 |
| 返品調整引当金 | 237 | 237 |
| その他 | 8,577 | 9,289 |
| 流動負債合計 | 38,755 | 38,183 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 5,800 | 5,800 |
| 繰延税金負債 | 194 | 197 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 3,287 | 3,287 |
| 退職給付引当金 | 1,338 | 1,305 |
| 資産除去債務 | 249 | 258 |
| その他 | 3,657 | 3,847 |
| 固定負債合計 | 14,527 | 14,696 |
| 負債合計 | 53,282 | 52,879 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 26,137 | 26,137 |
| 資本剰余金 | 31,197 | 31,197 |
| 利益剰余金 | 25,815 | 27,134 |
| 自己株式 | △3,022 | △3,023 |
| 株主資本合計 | 80,128 | 81,445 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 668 | 695 |
| 繰延ヘッジ損益 | △492 | △635 |
| 土地再評価差額金 | △1,498 | △1,498 |
| 為替換算調整勘定 | △3,785 | △3,491 |
| その他の包括利益累計額合計 | △5,107 | △4,930 |
| 少数株主持分 | 168 | 197 |
| 純資産合計 | 75,188 | 76,713 |
| 負債純資産合計 | 128,471 | 129,592 |

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

| | 前第１四半期連結累計期間<br>（自 平成22年４月１日<br>至 平成22年６月30日） | 当第１四半期連結累計期間<br>（自 平成23年４月１日<br>至 平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 売上高 | 41,156 | 41,541 |
| 売上原価 | 23,559 | 23,740 |
| 売上総利益 | 17,596 | 17,800 |
| 販売費及び一般管理費 | 14,583 | 14,602 |
| 営業利益 | 3,012 | 3,198 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 39 | 62 |
| 受取配当金 | 100 | 104 |
| その他 | 76 | 107 |
| 営業外収益合計 | 216 | 274 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 114 | 94 |
| 売上割引 | 145 | 145 |
| 為替差損 | 310 | 166 |
| その他 | 21 | 45 |
| 営業外費用合計 | 592 | 451 |
| 経常利益 | 2,636 | 3,020 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 3 | 1 |
| 退職給付制度改定益 | － | 56 |
| 関係会社清算益 | － | 17 |
| 特別利益合計 | 3 | 74 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | － | 0 |
| 固定資産除却損 | 3 | 0 |
| 減損損失 | 4 | － |
| 資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額 | 141 | － |
| 早期退職特別加算金 | 147 | － |
| 災害による損失 | － | 10 |
| 特別損失合計 | 297 | 10 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 2,342 | 3,084 |
| 法人税等 | 1,078 | 1,114 |
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 1,264 | 1,969 |
| 少数株主利益 | 23 | 27 |
| 四半期純利益 | 1,240 | 1,941 |

## 四半期連結包括利益計算書

第１四半期連結累計期間

（単位：百万円）

| | 前第１四半期連結累計期間<br>（自 平成22年４月１日<br>至 平成22年６月30日） | 当第１四半期連結累計期間<br>（自 平成23年４月１日<br>至 平成23年６月30日） |
|---|---|---|
| 少数株主損益調整前四半期純利益 | 1,264 | 1,969 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △521 | 26 |
| 繰延ヘッジ損益 | △329 | △142 |
| 為替換算調整勘定 | 164 | 295 |
| その他の包括利益合計 | △686 | 179 |
| 四半期包括利益 | 577 | 2,148 |
| （内訳） | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 548 | 2,119 |
| 少数株主に係る四半期包括利益 | 28 | 29 |

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。